

「私のサラ・ボーン!」とユミさんはニコニコ

ジャズボーカリスト
星乃けいofficial website
<https://www.hoshinokei.com>

子供の頃から長い間唄ってきて、JAZZの中に自分の本当の居場所を見つけるのに、30年位かかったようです。初体験のジャズセッションから、しばらくはリスナーとして演奏をひたすら楽しみました。じっくりと聞き耳を立てたり、時にはガッツポーズをしたり、声援を送ったりと、自分の好きなようにJAZZという音楽の中に居ることが幸せでした。とっても快適でリラックスできたから。でも、まだ趣味とか遊びの段階であったと思います。

そんな頃、またしても音楽仲間から二度目のセッションに誘われました。でも、実は行きたいとは思いませんでした。JAZZのお店ではリスナーとして、呑気にダラダラと楽しみたいなあ。私にとって歌を唄うことは楽しくて生き甲斐でもあったけれども、それは仕事でもあるということに縛られていたのかもしれない。だから自由参加のセッションとはいえ、中途半端な唄をご披露するのはとても恥ずかしかったんです。でも結局は連れていかれました。自由が丘にあった『Rough & Ready』。往年のジャズボーカリスト「故ユミ・マーシー」さんが経営していたお店です。私をジャズボーカリストに仕立て上げたのは、こ

のユミさん。ユミさんに出会わなければジャズボーカリストになっていなかったかもしれません。その日「ジャズをちゃんと唄えないから嫌だな。いつも聴いてるミュージシャンみたいにカッコよく唄えないし」と重い気持ちで唄ったんですが、ユミさんは「私のサラ・ボーン!」とニコニコ顔で褒めてくれました。嬉しかったけれど、客商売の人はお世辞が上手いからなあ、軽く受け止めて帰りました。その後、このお店は自宅から近いこともあり、誘われるままに2回行きました。そしてユミさんを眺めていると、私を褒めてくれたのはお世辞ではなかったことに気づきました。なぜならユミさんはたとえキツイ、厳しい感想であってもハッキリとおっしゃる方だと分かったからです。行く度に「私のサラ・ボーンが来た!」って喜んでくれたなあ。3回目に行ったときに半ば強引にライブをやるべきだと勧められました。えー!3曲しか唄えないから無理!とお断りすること4回。5回目にはスケジュールも空けていてピアニスト池野成秋さんも押さえているからと。ほとんど強制的に私の初ライブが決まってしまいました。そんな押し強いユミさんが居てくれたので今があるんだと思います。私は弱虫で臆病

なので、これまでも先輩方に引っ張り上げてもらって音楽を続けることができていました。ユミさんには無理矢理に引きずり上げられた感じではありませんでしたが(笑)

そしてある日、ユミさんが亡くなられたその日のその時刻、私はなぜか不思議な胸騒ぎがして、気がつくともユミさんのお店の前に立っていました。きっと「私のサラ・ボーンが見送りに来た!」って思ってたのだらうな。ユミさん、本当にありがとうございました。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム『NEARNESS OF YOU/星乃けい』、2006年12月20日『IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい』をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。